



▶長野県白馬村

# 地域資源を最大限活用した 白馬高校魅力化プロジェクト

生徒数の減少から廃校の危機に瀕した村内唯一の県立高校である白馬高校を存続させるため、山岳環境や定住外国人も含めた人的資源など、地域資源を最大限に活用した「国際観光科」を新設し、生徒を全国から募集することとしました。

生徒募集の情報発信や事業のPRも兼ねて、クラウドファンディング型のふるさと納税を実施しました。平成28年度には受験指導等を行う公営塾や、全国からの生徒を受け入れる教育寮の設置・運営等の費

用、平成29年度には生徒の留学を支援する費用を募りました。

また、地域内外の事業者から社会人講師の派遣等により白馬高校を応援いただく制度も創設しました。

寄附者に対しては、留学を経験した生徒からのレポートを送付することで事業の成果を報告しています。



公営塾「しろうま学舎」のプロジェクト学習



教育寮「しろうまPalHouse」の寮生とスタッフ・関係者

注力した点や工夫した点

ホームページやSNS等への掲載のほか、村開催の観光客向けイベントや都市部開催の移住セミナーでのチラシ配布、ポスター掲示などの情報発信をしています。

Check

## 取組の効果

ふるさと納税をきっかけに、県外出身者を含め、入学者数が増加傾向に転じ、平成26年度には150名を下回っていた全校生徒数が、現在は200名を超えています。

ふるさと納税の活用により、平成29年より毎年20名の生徒がニュージーランドに留学し、多文化に触れながらより実践的に英語を学ぶ機会を得ています。

取組の結果、地域住民の白馬

高校に対する愛着も高まり、授業へ協力する事業所や白馬高校とのコラボ企画を提案する企業も増えています。



白馬高校でのニュージーランドの高校生との交流の様子



JR白馬駅で信州DCキャンペーンのイベントに協力

寄附者の声



・地域に根差しながらも世界に通用するグローバルな人材づくりはとても素晴らしい取組だと思います。

住民の声



・白馬高校を卒業した子どもたちが白馬村の未来を牽引してくれるのが楽しみです。